

キャリアデザイン学部 2020年度 推薦図書一覧

キャリアデザイン学部によるこそ

皆さんに大学生活の中でじっくり読んでもらいたい本を、
学部の専任教員が1冊ずつ選びました。

推薦文はつけていません。

「なぜこの本を選んだんだろう」と考えながら、ぜひ、手に取って読んでみてください。
皆さんの読書体験が豊かなものになりますように。

教員一同

<p>1. 荒川 裕子</p> <p>瀧本哲史『ミライの授業』 講談社、2016年</p>	
<p>2. 梅崎 修</p> <p>宇野重規『〈私〉時代のデモクラシー』 岩波新書、2010年</p>	
<p>3. 上西 充子</p> <p>高見勝利（編集）『あたらしい憲法のはなし 他二篇』 岩波現代文庫、2013年</p>	
<p>4. 遠藤 野ゆり</p> <p>千野帽子『人はなぜ物語を求めるのか』 ちくまプリマー新書、2017年</p>	

<p>5. 金山 喜昭</p> <p>広井良典 『コミュニティを問い直す—つながり・都市・日本社会の未来』 ちくま新書、2009年</p>	
<p>6. 木村 琢磨</p> <p>プラトン著、藤沢令夫訳『国家』(上)(下) 岩波文庫、1979年</p>	
<p>7. 熊谷 智博</p> <p>橋本昇 『内戦の地に生きる フォトグラファーが見た「いのち」』 岩波ジュニア新書、2019年</p>	
<p>8. 児美川 孝一郎</p> <p>児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』 ちくまプリマー新書、2013年</p>	
<p>9. 斎藤 嘉孝</p> <p>マックス・ウェーバー『職業としての学問』 岩波文庫、1980年</p>	

<p>10. 酒井 理</p> <p>パコ・アンダーヒル(鈴木主税・福井昌子訳) 『なぜこの店で買ってしまうのか』 ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2014年</p>	
<p>11. 坂爪 洋美</p> <p>山竹伸二『「認められたい」の正体 — 承認不安の時代』 講談社現代新書、2011年</p>	
<p>12. 坂本 旬</p> <p>榎本博明『<ほんとうの自分>の作り方』 講談社現代新書、2002年</p>	
<p>13. 笹川 孝一</p> <p>穂吉 敏子『ジャズと生きる』 岩波新書、1996年</p>	
<p>14. 佐藤 厚</p> <p>司馬遼太郎『この国のかたち』(一～六) 文春文庫、1993年</p>	

<p>15. 佐藤 恵</p> <p>金子郁容『ボランティア—もうひとつの情報社会』 岩波新書、1992年</p>	
<p>16. 高野 良一</p> <p>小林昭文 (著), フランクリーン・コヴィー・ジャパン (監修) 『7つの習慣×アクティブラーニング』 産業能率大学出版部、2016年</p>	
<p>17. 武石 恵美子</p> <p>スペンサー・ジョンソン(門田美鈴訳) 『チーズはどこへ消えた?』 扶桑社、2000年</p>	
<p>18. 田澤 実</p> <p>アドルフ・ポルトマン 『人間はどこまで動物か——新しい人間像のために』 岩波新書、1961年</p>	
<p>19. 田中 研ノ輔</p> <p>田中研之輔『先生は教えてくれない大学のトリセツ』 ちくまプリマー新書、2017年</p>	

<p>20. 筒井 美紀</p> <p>南 悟『生きていくための短歌』 岩波ジュニア新書、2009年</p>	
<p>21. 寺崎 里水</p> <p>トーマス・トゥエイツ (村井理子訳) 『人間をお休みしてヤギになってみた結果』 新潮文庫、2017年</p>	
<p>22. 中野 貴之</p> <p>戸田山和久 『科学哲学の冒険—サイエンスの目的と方法をさぐる』 NHK ブックス、2005年</p>	
<p>23. 廣川 進</p> <p>上田紀行『生きる意味』 岩波新書、2005年</p>	
<p>24. 福井 令恵</p> <p>小川さやか 『「その日暮らし」の人類学～もう一つの資本主義経済～』 光文社新書、2016年</p>	

<p>25. 松浦 民恵</p> <p>ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド著／上杉周作、関美和訳 『FACTFULNESS』 日経BP社、2019年</p>	
<p>26. 松尾 知明</p> <p>芹澤健介『コンビニ外国人』 新潮新書、2018年</p>	
<p>27. 安田 節之</p> <p>小此木 啓吾『モラトリアム人間の時代』 中公文庫、2010年</p>	